

「こんにちは」から始まる国際交流



かにえ国際交流友の会

Kanie International Friendship Association

会報 No.12 (March 2005)



2004年7月18日ルイジアナからの高校生を迎えて

Contents

- ◇ 「KIFAへの期待」 / 町長 横江淳一
「国際交流の観点から新町長への期待」 / 会長 藤田美保
「この先もKIFAの健闘を期待します」 / 前町長 佐藤篤松 2
- ◇ 2004年度主要活動一覧、2004年度行事・活動風景アルバム 3
- ◇ 「ハンブルグ訪問（ツーターさんの見舞い）とドイツ小旅行」 / 藤田美保 4
- ◇ JLFF高校生ホームステイ：「ジョナサンとの出会い」 / 関山秀美
「初めての息子」 / 桜井初美、「息子のブライアン」 / 長坂多美子 5
- ◇ 「KIFAをやってよかった」 / 太田アナリザ
KIFA日本語教室の案内、英会話教室へのお誘い 6
- ◇ 「ハワイ自由旅行」 / 後藤雅子、KIFAのミャンマー小学校への援助活動 7
- ◇ 「タイで研修と交流の旅」 / 谷中ひさ子、「国際交流関連講演会」まとめ 8
- ◇ 「インドネシア」国旗、企業会員/賛助会員一覧、2005年度行事予定 10

「国際交流」の観点から新町長への期待

会長 藤田美保



新町長横江淳一氏には2年ほど(?)前、企画課を通して蟹江町の国際交流について話を聞きたいと言ってみるとのことでお会いしました。町議として和歌山県の町(?)に視察に行くに際して、

そこは国際交流に力を入れているから蟹江町の実状を知っておきたいとのことでした。資料をお渡しして、活動状況について色々説明したことを今回思い出しました。

KIFAは創立以来10年以上経ちますが、現在まで蟹江町会議員の中で横江さん以外に、直接KIFAについて説明を求められた方は皆無でしたので強く印象に残っています。このように「国際交流」に関心をお持ちの横江町長には当会に一層の支援をいただけるものと期待しております。

一方、今回町長を辞められる佐藤氏には、ほぼ創立以来10年以上にわたるKIFAへの支持に対してお礼申し上げます。就任当初からこまめにKIFAのイベント等の行事に出席いただいたこととか、大変お世話になりました。これから先もKIFAの活動を見守っていただければ幸いです。

(3月31日原稿記す)



聖トーマス教会の前に立つ
J.S. バッハ像 (p4 参照)

「かにえ国際交流友の会への期待」

町長 横江淳一



KIFAの皆さんにおかれましては、日ごろから地域の国際交流にご尽力いただき、心から敬意を表し、厚くお礼申し上げます。

さて、今年3月25日から待ちに待った愛知万博が開幕

し、また、その1か月ほど前には中部国際空港が開港し、文字通り「世界大交流」がここ愛知で行われています。町といたしましても、愛知万博では、世界の人々に蟹江町の特産品や歴史・文化、伝統芸能を世界に発信していきたいと思っています。また、一市町村一国フレンドシップ事業の相手国・モンゴル国を応援し、万博を盛り上げていきます。

KIFAの皆さんも、「こんにちは」から始まる国際交流」を合言葉に、さまざまな国のかたと積極的に交流されることと期待しております。

最後になりましたが、KIFAが誕生してから丸12年が過ぎ、その間地域に根ざしたさまざまな交流事業や国際理解講座、支援活動などを行っていただくとお聞きしています。今後もKIFAが、地域レベルの国際交流活動の中核としてますます発展されますようご祈念申し上げます。ごあいさついたします。

「この先もKIFAの健闘を期待します」

前町長 佐藤篤松



今回、町長の職から身を引くことになり、ひと言、かにえ国際交流友の会の皆さんにお礼のあいさつを申し上げたいと思います。

私とかにえ国際交流友の会は、ほとんど同じ時を歩いてきたように思います。かにえ国際交流友の会は平成4年に設立され、私が始めて町長に就任したのは平成5年で、スタート時点はほとんど同じであります。私は蟹江町のために頑張り、

皆さん方は、地域の外国人のために頑張って来られました。近頃では、近隣の町村に国際交流団体がないこともあり、町域を越えて近隣の外国人の皆さんを受け入れるなど、友の会の活動に対して、蟹江町内外を問わず多くの皆さんが感謝していると思っています。

今後は、個人としてかにえ国際交流友の会を応援し、少しでもかにえ国際交流友の会のお役に立ちたいと思っています。ありがとうございました。

かにえ国際交流友の会 2004年度実施の主要行事一覧

開催日	行事内容
2004年	
4月 18日 (日)	総会・パーティー (公民館分館)
6月 13日 (日)	親善ボーリング大会 (カニエボウル)
7月 18日 (日)	JLFFルイジアナ高校生ゲスト歓迎会
8月 7日 (土)	町民夏祭り出店 (創郷公園)
8日 (日)	同上
10月 9日 (土)	町民秋祭り出店 (町役場前)
10日 (日)	同上
12月 12日 (日)	クリスマスパーティー (源才コミュニティーセンター)
2005年	
2月 20日 (日)	国際交流関連講演会&料理(タイ料理&タイの話)

KIFA 2004年度の行事・活動風景 (一部)



夏祭り出店



秋祭り出店

ボウリング大会にて



ルイジアナのゲスト高校生と受け入れ先



ジョン先生と英会話教室



Xmas会でのハンドベル演奏



タイ料理試食



国際交流講演会：
「タイ料理とタイの話」



ハンブルグ訪問（ツーターさんの見舞い）とドイツ小旅行

藤田美保

ハンブルグのツーター（JUERGEN & ANITA ZUTHER）夫妻幹旋による4回目のホームステイ訪問団が昨年4月蟹江に来る予定でした。ところがご主人のユルゲン・ツーターさんがガンを患ったため10月予定で延期となりましたが、ご存知のように結局中止となりました。そこで9月に彼の病氣見舞を兼ねて、ハンブルグとドイツ国内小旅行に出かけました。

9月5日フランクフルト経由ハンブルグ空港着、ヨニとイルゼのヨナート（JONNI & ILSE JONAT）さん夫妻が待っていた。この時全く偶然だがツーター夫妻も、ホームステイしている日本人女性（後述、フランクフルトから同じ飛行機に乗っていた？）の出迎えのため来ていた。この両夫妻とは前回（1998年）のハンブルグ訪問

以来、6年ぶりの再会であった。ハンブルグではヨナートさん宅に滞在させていただいた。前回の訪問時の雨がちの肌寒い天候（7月！）とは打って変わって今回は滞在中ずーっと気持ちのよい快晴続きだった。

次の日の午後、ヨニが趣味で復刻した1931年製の自動車（“Ford A”、写真の背景に写っているもの）でツーター夫妻とそこにホームステイ中の上記の女性、“ゲーティンスティチュート”でドイツ語の研修中の樋口ゆいさん、を迎えに行き、庭で昼食そして夕食を摂りながら夜まで談笑した。

ユルゲンは前立腺ガンをラジオアイソトープを用いて治療し、もう一カ所の胸部ガンは特に治療はしていないが以前より小さくなっていると話していた。7月頃には体重が減りかなりやつれていたが最近では元通りになって来たとのことだ。手紙で、「前立腺ガンの放射線治療」^①をしていると記してあったため、私はひょっとして末期ガンなのかと思っていたが、元気そうで以前と変わらない

様子の彼を見て正直驚いた。彼が治療できて、KIFAとのホームステイ交流が再開できることを希望しつつツーター夫妻を見送った。

ハンブルグには3日間滞在後、世界遺産に指定されているランメルスベルク田鉱山の博物館（Rammelsberg Mine Museum）を見るためゴスラー（GOSLAR）に行った。ここでは昔の坑道を歩いて見たり、最近まで使用していた新しい坑道をドロッコで見回ると、この種の博物館好きの

私にとって満足のゆくものだった。ゴスラーは小さいが、大変古い町並みや歴史的建造物が残っていてこの町自体も興味深い所であった。

最後にぜひ行きたかったライブチッヒ（LEIPZIG）を訪れた。ヨハン・セバスチャン・バッハが聖トーマス教会の音楽監督

として人生の半ばから亡くなるまで過ごした町（都市）である（この教会の中に墓がある）。ここには今も続く有名な聖トーマス教会付属合唱団があり、いわゆるバロック音楽の聖地の一つと言える。毎週末のミサではバッハの時代と同様、この合唱団の演奏を聞くことができる。実際、滞在した土曜日午後にはこの教会で、ゲバントハウス交響楽団とこの合唱団によるバッハの“ロ短調ミサ曲”を聞くことができ感動した。

ライブチッヒ空港からフランクフルトを経由して9月13日に帰国した。後で届いたヨナートさんからの手紙によると私が去ってから急に天気は悪くなり寒くなったとのこと、ほんとうにあの期間は、珍しく幸運に恵まれたようだ。

＊注）つい最近職場の共済組合の広報紙に「前立腺ガン治療の今」という記事がのっていました。これによると放射性ヨウ素を封入した非常に小さな針を前立腺部に埋め込む“小線源療法”という放射線治療が日本でも始まったということです。これはむしろ初期ガン適応の療法だそうです。



1931年型フォードAの前で（JONATさん宅）

「ジョナサンとの出逢い」

関山秀美

「アメリカの男の子をホームステイさせてくれない？」と突然友達からの電話。



私（学生時代）と次男（高校1年生時）には、それぞれホームステイの経験はありますが、ホストファミリーは初めての事でした。下宿している大学生の長男の部屋が空いているので、OKの返事をしたものの、英語アレルギーの主人は……。ところが、彼の名は「ジョナサン」とても親しみやすい名前で、193cmの長身なのに几帳面で礼儀正しく、ブルーの目ではにかむ笑顔はとても素敵な栗毛のナイスガイでしたから、主人もすぐになじめました。

ジョナサンよりひとつ年下の次男とは一緒に買い物に行ったり、パソコン・バイク・車の話題で

盛り上がっていました。多忙なスケジュールの中、我が家での生活にも満喫して「名古屋の町はきれいですね」とか「日本の女の子はかわいい」の連呼でした。

大学で国際経営の勉強を専攻すると言っていた彼は「いつかまた日本に来たいです」といって帰国しました。彼と暮らした3週間は“あっ”という間でしたが、数多くの彼の思い出は、いつまでも、私たち家族の心の中から消えることはないでしょう。 **ジョナサン、See you again!**



ルイジアナからの高校生とホームステイ受け入れ家庭

ゲスト名	Bryan FORD	Jonathan WADE	Darren NORMAND	Nathan AVANT
受け入れ宅	長坂さん	関山さん	桜井さん	青木さん

「初めての息子」

桜井初美

アメリカ人の男の子と聞いて初めはあまり気の乗らないホームステイだったのですが、ほんとうに偏見であったと痛感しました。私自身子供も二人女の子で、今まで女の子しか受け入れたことがなく男の子といったい何を話したらいいのか。洗濯はどうしよう。部屋の掃除なんかは私がするのかな？朝はどうやって起こそう…。とにかくいろいろ悩みましたが、まったく No Problem!

女の子も男の子もなんら変わりがありません（あたりまえ？）。むしろ彼の方が今までの誰よりも部屋の中がきれいで驚きました。とてもシャイでおとなしく優しい子でした。あっという間の3週間で本当にゆっくり会話が出来たのは残り3日ぐらいという頃でした。KIFAの方々や服部さんたちのおかげでなんの心配もなく過ごすことが出来感

謝しています。こんなすばらしい体験をぜひいろいろな人に味わっていただきたいと思います。

「息子のブライアン」

長坂多美子

息子のブライアンは本当にさびしがり屋さんで、何度もメールや電話をくれます。今年の初めに遅がけのクリスマスプレゼントが届きました。大きな箱に沢山のプレゼント。本当にびっくり。そして何度も日本に来たいと話します。いつでも待っているよと返事しますが、こちらから会いに行っておあげようかなとも考えています。日本が大好きで、私の家族をいつでも愛してくれるかわいい息子ブライアン。再会が楽しみです。いつか必ず会えるから、お互いに健康でいようねと約束しています。

「KIFAをやってよかった」

太田アナリザ

私は太田アナリザです。1年7ヶ月前にフィリピンから日本にきました。ほかの国でくらすことはそんなに簡単ではないとおもいます。さいしょ、日本でのくらしはとてもたいへんでした。たべものが口に合わないとか、ことばとか、天気とか、りょうりもじょうずではありません。そしておべんとうにはいろいろ小さいおかずをいれます。ほんとうにチャレンジだとおもいます。でも、そのなかでコミュニケーションが一番たいせつなことだから、たくさんにほんごをおぼえていきたいです。

このボランティアグループ



はKIFAといいます。しゅじんにさがしてもらいました。KIFAをやって、コミュニケーションやにほんごでのなしかたをたのしくおしえてもらえて、いろいろなことをべんきょうできて、ともだちもたくさんできてよかったです。火曜日はにほんごのべんきょうの日ですから、とてもうれしいし、たのしいです。ホームシックのこともわすれます。

それからおべんとうやさんではたらいて、いろいろなことができて、これもまたチャレンジだとおもいました。いいいけんでした。これからもがんばります。日本の家族とせんせいたちのサポートにかんしゃします。

KIFA,ほんとうにありがとうございます！

(リザさんは日本語教室火曜日クラスの生徒です。本人による日本語原文を日本語教室のスタッフが添削しました。)



創郷公園から見る伊吹山

KIFA日本語教室「日本語しゃべろう会」の案内

★火曜日クラス：毎週火曜日、10:30 - 12:00

蟹江児童館（蟹江中学校の西隣り）

連絡先(担当):川崎直子、TEL/0567-96-3394

★土曜日クラス：毎週土曜日、19:30 - 21:00

中央公民館

連絡先(担当):八神里美、TEL/0567-95-0307

お知り合いの外国人の方達に上記教室があることを教えてあげてください（もちろん無料です！！）。これらの教室では日本語講師のボランティアも募集しています。関心のある方、上記の役員までご連絡下さい。

KIFA英会話教室へのお誘い

★★ 講師：ジョン山本先生、第2、4日曜（月2回）、中央公民館 ★★

★ クラスA：午前9:00～10:30、クラスB：午前10:30～12:00 ★

会費は月¥2,000程度（受講者数により多少変動）です。当クラスでは現在、受講者を募集中です。詳細、申し込みは担当：青木猛、TEL/0567-31-1216まで。

ハワイ自由旅行

後藤雅子

少し英語を勉強している私達五人は、自分達の能力を無視してすべて自由行動の無謀なハワイ旅行をして来た。ハプニングは最初から起こり、五泊六日の予定が旅行会社の都合で同金額で六泊七日の旅行となった。

ハワイ島へ渡ったときは、朝五時集合で固い冷凍のパンとフルーツジュースの朝食。島めぐりの観光バスの運転手は孫のいる中年の女性で、ウエスタンスタイルが“カッコ”いいハスキーな声でマイク片手に急なカーブを高速ドライブでちょっと恐かった。

キラウエア火山の近くにこそ行けなかったけれども古い溶岩の黒い殺伐とした大地、これこそ本物のハワイの姿だと云われ、一般には南国のイメージがあるハワイのもう一つの顔を見てきた。黒い砂粒の海岸も初めて見た。ここで買った大きなパンが後日私達五人の胃袋を満たす食糧になるなんて誰が想像しただろうか。方向も言葉もわからないのにバスに乗ってハナウマ湾とかダイヤモンドヘッドへ行ったり、タクシーの運転手と交渉して水族館に行ったりしてオバさんパワーを発揮してきた。そのときの私達ときたら、ハナウマ湾と云う皆が泳いでいる海岸でUVセットの長袖シャツとジーンズ姿で目深に帽子をかぶると云う異様なスタイル。さぞ現地の方とか、観光客は



ビックリした事だろう。

ダイヤモンドヘッドに登るときレスキューの人とヘリを見掛けた。実際、登っている途中で怪我をした人に会った。この時は観光地といえ自分の体は自分で守るという基本的な事を改めて思い知らされた。ダイヤモンドヘッドの近くにはレストランがあるとガイドブックに記されていたのでランチはそこで決めていた

が、来てみると水一本買うところがなかった。ハワイ島で買ったパンと前日の残りのフルーツとジュースを持って来たのが幸いであった。リタイヤせずにダイヤモンドヘッドに登る事が出来たのは昨日の残り物のお陰です。

ハワイに行って印象に残った事は、まず現地の人の大食ぶりでサラダを注文したらお盆の様なお皿にレタスだけが山盛り。食事も二人前で五人が充分食べられその量の多さ。もう一つ驚いたことはドライバーも観光バスのガイドさんも八十才位の方が派手なムームーを着て現役でしっかり働いている事だ。それも生き生きと人生を楽しんでいるかのように。ハワイのあの真っ青な空と海、ゴミ一つ落ちていない美しい海岸や緑いっぱい公園、ゆったりと流れる時間……。ハワイで過ごした日々は今でも私達の頭の中にしっかり刻み込まれている。(写真：向かって左が筆者の後藤さん)

ミャンマーの小学校への支援活動



図書館



KIFAは継続的にミャンマーの小学校への支援を行っています。ここに示す図書館とトイレはこの援助によって昨年建てられたものです。

タイ（チェンマイ、チェンライ、バンコク）で研修と交流の旅

谷中ひさ子

愛知県国際交流はなのき会主催の研修旅行に参加した10名は、2月3日AM10:30のタイ航空で出発、バンコクで乗り換え、チェンマイ空港へ。出発前、周囲に声をかけスマトラ沖地震津波支援の寄付金と教育関係者への文房具、タオル、楽器、サッカーボールなどの大量の荷物を持って行きました。しかし・・・ダンボール箱や紙袋にぎっしり詰まったタオルやポケットティッシュが見咎められ、税関で足止め。訪問先とやり取りした書類をいろいろ見せてわかってもらって、やっとタイへ入国。その晩、屋台で食べたタイ風ラーメンの美味しかったこと！そこから2月10日AM1:10にタイを離れるまでの1週間の旅が始まりました。

まず、チェンマイでは「独りぼっちの木の根運動」を始められて9年目になる梅林正直氏を訪問。北タイの山岳地帯・ゴールドトラリアンゲルに、麻薬原料のケシの栽培代わりに梅の木を植えて梅の実を取り、収入に繋がる指導をしてみえます。現在



梅林正直氏とデビーさんと共に

すでに12,000本の梅を植えられたそうです。「黄金梅酒」が発売されるのも間もなくでしょう。

ちなみに梅は梅林先生の姓そのもの、先生とタイの縁の深さを感じました。

一方、9年前からチェンマイに住んでいるアメリカ人・デビーさんに会うことが出来たのもこの旅行の大きな出来事。昼食を一緒にしながら、彼女が20年以上前に佐屋町に住んでいた頃の懐かしい話に花が咲きました。

チェンマイとチェンライの間の町・ウイエングババオにある「暁の家・山岳民族生徒寮」では2泊し、寮生のお世話をしている中野穂積さんの活動を見ました。そこから車で40分程デコボコの山道を奥地に入ったラフ族の小さい子ども達のための寮にも出かけ一緒に遊びました。カレン族、アカ族、ヤオ族・・・それぞれ出身部族の衣装を身につけ、踊ってくれた中高生達の純朴な可愛さには感動を覚えま

した。私達も郡上踊りでお返しをしました。

丁度花祭りでにぎわうチェンマイから飛行機でバンコクへ。一番規模の大きいスラム街・クロントイ地区にあるドゥアン・プラティープ財団の視察では、経営している幼稚園の子ども達に日本語を教えるお手伝いができ、子供たちと楽しい時間が持てました。可愛いピンクや水色の制服を着た子供たちと、スラムの現状とうまく結びつかず戸惑いも感じましたが、それだけスタッフの皆さんの努力があるということでしょう。

私達が帰る直前に、国会議員のプラティープさんとお話することが出来ました。小柄で華奢な身体ですが、どこに16歳からスラムの人のために活動を始めて、1978年のマグサイサイ賞、1981年のロックフェラー賞、昨年の「世界子ども賞」を受けられたようなエネルギーがあるのかと思われました。握手をする手に思わず力が入りました。

“Foundation for women”は女性や子供が受ける暴力や虐待に対し支援、また、その人権を訴え資金援助も行っている団体です。海外へ送られて行った女性がそこで困難な状況になっている場合も多いので、それにも力を貸しているのが大きな特徴です。またラオス、ミャンマー、ベトナムなどからタイへ来ている女性にも手を差し伸べ、ニーズに応じようとしています。それは、一つの壁を乗り越えると、次の壁に立ち向かうプロジェクトを起こすという素晴らしいエネルギーを感じました。

午後から訪ねたシャンティ国際ボランティア会(SVA)バンコク事務所はドゥアン・プラティープ財団のすぐ近くのスラム街・クロントイ地区にありました。ここの活動は、1980年タイに逃れてきたカンボジア難民への教育・文化支援活動から始まったものです。タイ、ラオス、カンボジア、アフガニスタンで活動し、ミャンマー難民にも手を差し伸べ、およそ20年にわたって各国の教育・文化支援に取り組んでいます。

各地区で図書館を運営し、移動図書館として2台の車で巡回している他、奨学金、学生寮、保育園と教育に不可欠なものはすべてカバーしているのには驚きました。丁度ラオスから着いたばかりの「熱き希望の大地～国際ボランティアからのメッセージ」の著者・八木沢克昌バンコク事務所長に会うことができました。国際ボランティアを長年実践し、言葉に言い尽くせないほどの苦勞をされたとは思えない



シャンティ国際ボランティア会の八木沢克昌バンコク事務所長にKIFAからの津波義援金を手渡す。

穏やかな雰囲気は、ここまでやってこられた自信から来るものでしょうか。「かにえ国際交流友の会」から、津波被害支援のため、イベント等で得たお金を寄付金として手渡しました。

最後に訪れたNPO "Empower" は、1985年から20年間、夜の街で働く女性達に教育を受ける機会を与え続けています。このような場所を作った初めての

団体だそうです。授業料は年間200バーツ（約600円）で、タイ語（タイ語を書けない人のため）、日本語、英語などを年間600人の女性に教えています。バンコク一番の繁華街パットボン通りがあるので気楽に通えるようです。また、夜の街で働く女性達へのHIVの啓蒙活動でWHOから支援を受けているそうです。政府のリハビリセンターが年間400人の教育しかまかなえないのに、たった4人のスタッフで年間600人の教育をしている、と自負してみました。

バンコクで訪問したどの施設も、それぞれの方法でスマトラ沖地震の被害者に対して支援をしていたのにはサスガ仏教国！と感心しました。崇高なボランティア精神を感じ取ることが出来たタイの研修旅行でした。もちろん、辛過ぎて食べられないものもあったとは言え、香辛料の強いタイ料理も楽しんできました。

「タイ料理を試食してタイの話を聞こう」

外国の事情をその国の人に語っていただくというシリーズ企画の一つです。今回は4人の日本在住タイ人にタイ料理を作ってもらい、試食しながらタイの交通事情、教育といった生活、習慣の他、昨年12月のスマトラ沖地震などのお話を伺いました。会員以外の方も含めて50名弱と多くの方が参加されました。ヨーベットさんはタイでコックをしていたそうので有名なトム・ヤン・クン（えびのスパイシースープ）を初め、ヤム・ウム・セン（春雨のスパイシーサラダ）、プーパッポンカレー（蟹のカレー粉炒め）、ナム・ド（ウ）・ムー（豚肉のスパイシーサラダ）、カナムチーン・ゲンギーオワーン（タイそう麺とグリーンカレー）と本格的なタイ料理を作ってくださいました。どの料理もとってもおいしかったです（青木猛 記）。

国際交流関連講演会(2005.2.20.開催)



写真/当日の講師陣：左から長谷川ソパー、ナティニー・クランボンブルーク、ニチャン・クシター、ヨーベット・チンサプー（右の写真も）の皆さん。黒板には当日の試食料理のメニューが書かれている。

蟹江町の史跡 「源氏の塚（源氏島）」



源義朝ゆかりの「源氏島」は現在、上のような「源氏塚公園」となり、左の記念石碑が置かれている。

世界の国旗シリーズ：インドネシア



1945年の独立時に制定された国旗。赤と白は13世紀末の発祥と言われる伝統的な国民色で、白色は潔白を、赤色は勇気を表わし、この2色の組み合わせで潔白の上に立つ勇気という意味をもつ。また、同時に赤と白は、太陽と月を表している。

KIFAイベントボランティア募集

右記の各行事、イベント等でお手伝いして頂ける方を募ります。各役員の方まで声をかけて頂ければ幸いです。よろしくお願いします。

2005年度の年間行事（確定分）

日 時	行 事
2005年4月17日	総会、懇親パーティー
6月12日	親善ボウリング大会
8月13,14日	蟹江夏まつり参加
10月8,9日	蟹江秋まつり参加
12月4日	クリスマス会
2005年2月19日	国際交流関連講演会
3月末	会報発行

ご協力ありがとうございました。引き続きご支援をお願いします。

企 業 会 員

(株) アイエス	蟹江住宅設備 (株)	甘強酒造 (株)
(株) 鈴鋼製作所	(株) 鈴鋼化成	(有) ダイアン
松屋 (株)		

賛 助 会 員

(株) 片桐銘木工業	共同建設 (有)	月星歯科クリニック	東海興業 (株)
日光鋳工場 (株)	フミン加工 (株)	松屋呉服店	丸信製粉 (株)
(有) 宮長食品	もへの寿司	山田栄子	

☆☆ 編 集 後 記 ☆☆

新町長さんのご挨拶を頂くため発行予定（3月末）より2週間ほど遅くなりました。KIFA会報が現在のスタイルに変わって4年ほど経ち、今回表紙デザインに変化を付けてみました。

会報の内容、デザイン等に関してご提案あるいはアイデアが有りましたらご意見をお寄せ下さい（ふ）。

発行：かにえ国際交流友の会

会長：藤田美保

TEL: 0567-95-9724 / 052-872-5855

E-mail: fujita@nsc.nagoya-cu.ac.jp

事務局：蟹江町役場総務部企画課内
〒497-8601 蟹江町学戸3丁目1番地
TEL: 0567-95-1111, FAX: 0567-95-9188